

てんしょうだいじんぐう

天照大神宮

港南5丁目

- 創祭由** 立神緒
- 天正年代(1573~92戦国時代)以前の創建
大日靈貴命 (おおひるめむちのみこと) ※天照大神を指す
- 明治41年9月に雑色・関・松本村の無格社であった
安房州神社・八坂神社・若宮八幡社・御霊神社・榛名神社
稲荷神社・杉山神社の7社が合祀された。
 - 笹下全体の総鎮守
- 特徴**
- 笹下方面からは区内でも有数の140段の階段を登り、鳥居をくぐると閑静な境内に社殿が現れる。
境内の東側からは笹下を眼下に、西側からは富士山が一望できる。
 - 樹齢330年のシイの木(市の古木指定)
 - 講和記念碑
太平洋戦争終結にともなう、連合国との平和条約締結を記念して本殿、拝殿の屋根吹き替え及び境内地の拡張を行い、以って天下泰平、国土安穩、五穀豊穰を祈誓するものである。
 - 例大祭 毎年9月5日は盛大なお祭りが行われる。

合祀された7社のその後について

八坂神社(関村の総鎮守)

→ 笹下天王台公園の雑木林内に祠が祀られ地元の人により守り続けられている。

安房州神社(松本村)

→ 原地は開発により消滅 宝物「蛇の頭骨」は天照大神宮に祭られている。

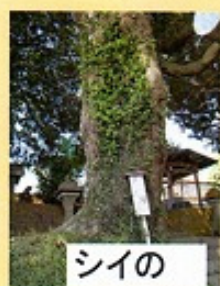
若宮八幡宮・御霊権現社(雑色村)

→ 神社統合により天照大神宮に合祀されたが、陰宮として地元の人々により守られていました。平成元年に若宮八幡宮の跡地に再建遷宮、平成18年「若宮御霊神社」として宗教法人が設立認可

残り3社の詳細は不明である。



参道



シイの



拝殿



慰霊碑



境内からの展望